

臨床心理士試験対策講座における総長先生の研修会において学んだこと

社会福祉学部准教授
農学修士 荒野多門

今回の研修会を含め、総長先生の授業に何回も参加してきておりますが、毎回の研修で痛感されるのが、総長先生の指示の明快さと、授業に参加している全ての学生に資格を取らせることに対する並々ならぬ熱意が迸っていることです。心理学の専門資格として、臨床心理士の資格を取得することは、仕事を行う上での必須要件となっているのにも関わらず、現実に資格取得に中々繋がっていない現実を、どのように打破していくのか、今回の研修で学んだことを述べさせていただきます。

まずは、試験そのものの目的として、「学生の能力を伸ばすためのもの」であると明確に指導されています。試験は「学生を試すためのものではない」ことは、言うまでもないことですが、「能力が身についた」ことを実感する一つの結果が、各授業の最後に行われる確認テストで、満点が取れることを積み重ねていくことであることは、研修で毎回確認させていただいています。

次に、学生にとって資格取得に一番大切なことは、問題を丸ごと暗記するように徹底させることです。そのためには、正しい選択肢は文章ごと覚え、誤っている選択肢は正しく直して、正しい文で暗記をしてしまうことです。そのためには、各問いの選択肢と解説を学生に音読させた後、暗記の時間をしっかりと確保することを励行することが大切になります。そのためには、暗記しやすいように適切な指示や言い換えを行いながら、暗記する学生の立場になって一番分かりやすい方法を実践していくことが欠かせません。

三つ目に、このような対策を続けていけば、学生は必ず資格が取得でき、将来的に幸せにつながることを、明瞭に学生に伝えることです。教員は、ともすれば自分の知っていることを一方的に話したくなってしまう性があることを十分に自覚し、「教えない勇気」を持つことが大切だということを、毎回ながら実感します。

私自身、キャリア教育の一環として、学生達に社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験に合格させる責務を負っておりますが、試験が迫ってくると、不安になった受験生からいろいろな相談や質問が上がってくるが多くなります。その時には、学生に対して、決してブレずに、「大丈夫。とにかく過去問題を繰り返し暗記してしまえば、試験には必ず受かることを信じなさい。残りの時間は、一度覚えたことで忘れてしまったことを覚え直すことに徹すること。そして試験当日に全力が出せるように、睡眠時間をきちんと確保して、体調管理に努めること」を、明確に伝えて指導してまいりたいと考えております。